

# ブラジル・メキシコ・アルゼンチン 経済・金融概況 (2026年1月)

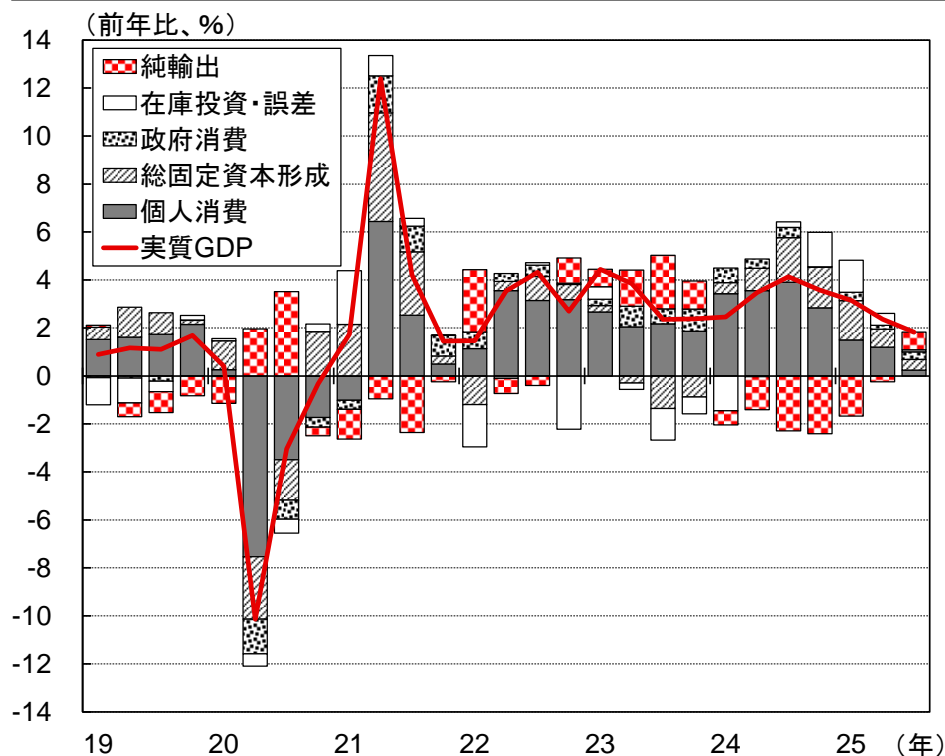
2026年1月21日

三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室

# 1. ブラジル (1) 景気概況

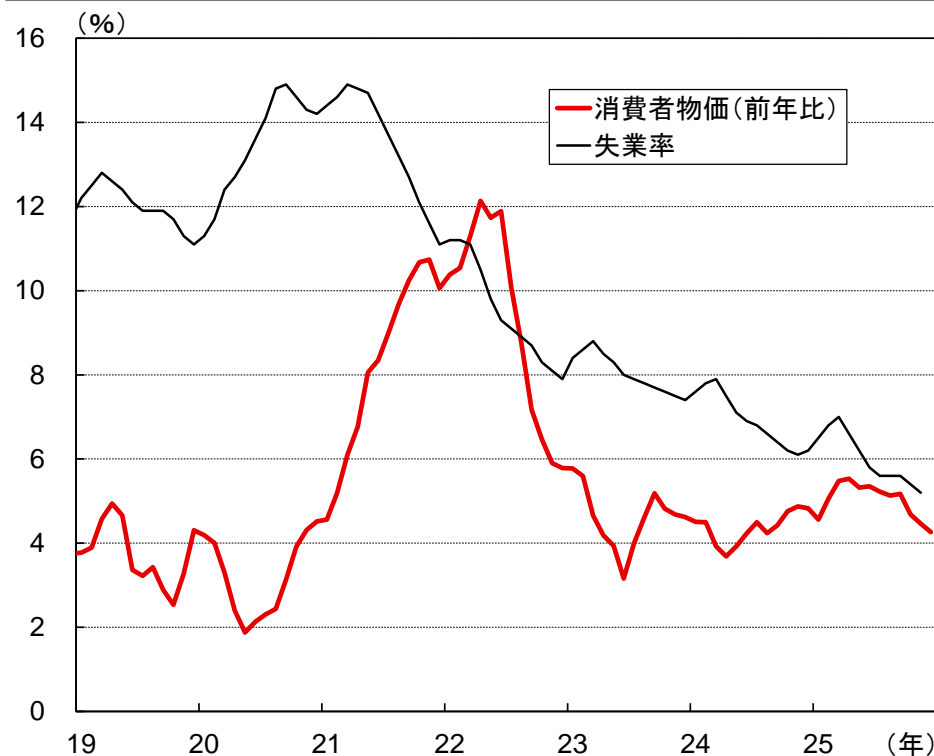
- 2025年7-9月期の実質GDP成長率は前年比+1.8%と、前期(同+2.4%)から減速した。需要項目別の寄与度では、政府消費(同+0.3%ポイント)はプラス幅が小幅に拡大し、純輸出(同+0.7%ポイント)はマイナス寄与からプラス寄与に転じた一方、個人消費(同+0.2%ポイント)と総固定資本形成(同+0.4%ポイント)のプラス幅が縮小した。
- 2025年11月の失業率(未季節調整値)は5.2%へ低下。2021年をピークに低下基調が継続。
- 同年12月の消費者物価指数は前年比+4.3%と、ブラジル中央銀行の定めるインフレ目標(前年比+3%±1.5%)内に収まる水準まで減速。

実質GDP成長率の推移



(資料) ブラジル地理統計院統計より国際通貨研究所作成

消費者物価上昇率と失業率の推移

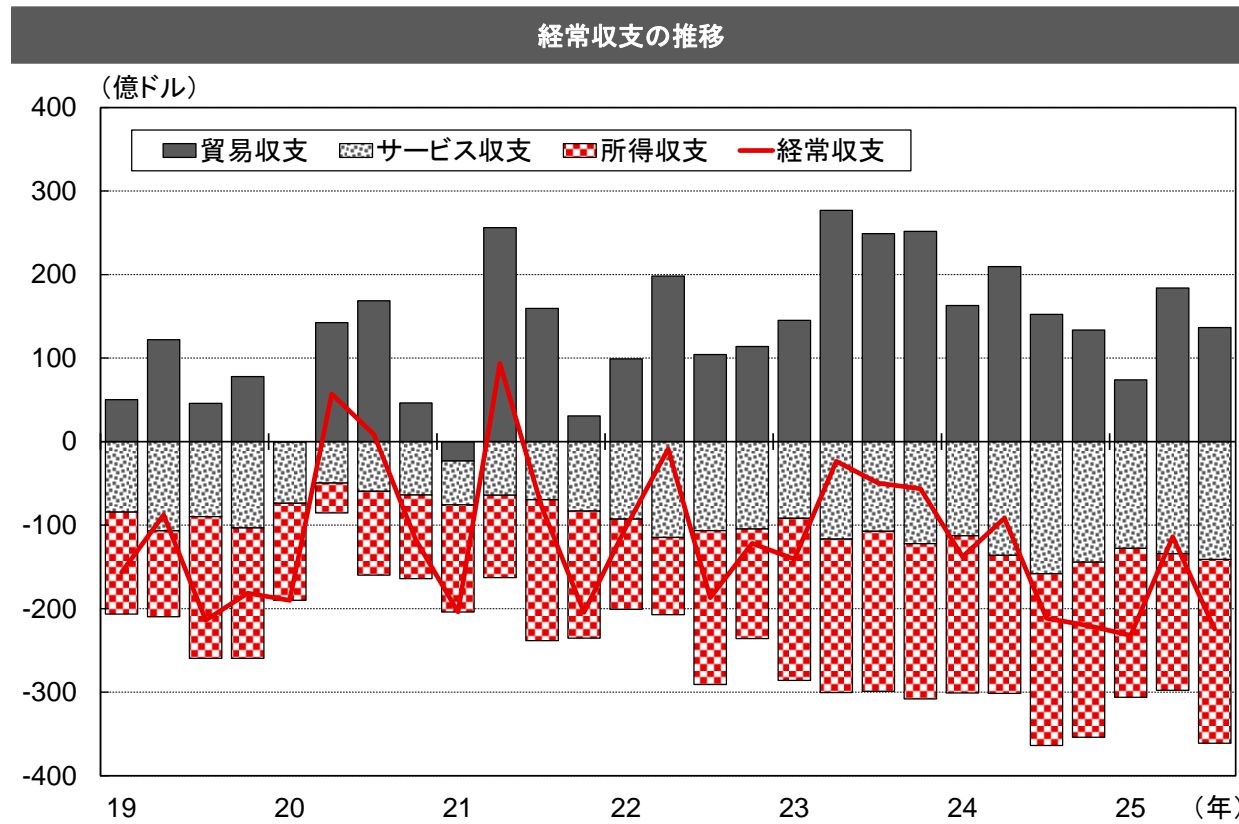


(注) 失業率は未季節調整値。

(資料) ブラジル地理統計院統計より国際通貨研究所作成

# 1. ブラジル (2) 経常収支

- 2025年7-9月期の経常収支は▲224億ドルと、前年同期の▲212億ドルから赤字幅が小幅に拡大した。
- 内訳をみると、サービス収支は▲141億ドル(前年同期: ▲158億ドル)と赤字幅が縮小した一方で、貿易収支は+137億ドル(同: +152億ドル)と黒字幅が縮小し、所得収支は▲220億ドル(同: ▲206億ドル)と赤字幅が拡大した。



(資料)ブラジル中央銀行統計より国際通貨研究所作成

# 1. ブラジル (3) 金融市場

- ブラジル中央銀行は2025年12月の金融政策委員会において、4会合連続で政策金利を15.0%に据え置くことを決定。米政権の政策の不透明性をはじめとする外部環境の不確実性に加え、国内経済の減速が進む一方、労働市場は堅調であり、インフレ目標の達成には引き続き長期的な金融引き締めが必要であると発信した。ブラジルレアルの対ドル相場は、足元1ドル＝5.5レアル前後で推移している。
- 株価(ボベスパ指数)は2025年1月以降上昇傾向が続いており、足元160,000ポイントを越えて推移している。ブラジル経済が減速傾向でありつつも底堅い推移をしていることや、世界的にリスク選好の流れが継続する中、他主要国の株価指数と比して引き続き割安であることもあり<sup>(注)</sup>、足元でも株価が上昇している。

(注) 2026年1月21日時点で、日経平均株価と米国S&P500の株価収益率(PER)はそれぞれ21.7、28.4であるのに対し、ボベスパ指数のPERは同時点で10.8と低水準であり、相対的に割安となっている。

ブラジルレアル(対米ドル)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

株価(ボベスパ指数)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

# 1. ブラジル (4) 経済・金融概況

## ブラジルの主要経済指標

	年次			四半期次				月次			
	2023	2024	2025	25/1-3	4-6	7-9	10-12	25/9	10	11	12
実質GDP成長率(前年比、%)	(3.2)	(3.4)	—	(3.1)	(2.4)	(1.8)	—				
経済活動指数○	102.87	106.37	—	109.11	109.41	108.58	—	108.63	108.52	109.26	—
鉱工業生産(前期比、%)○	(0.3)	(2.7)	—	(0.2)	(0.2)	(0.1)	—	(▲0.4)	(0.1)	(0.0)	—
設備稼働率(%)○	(78.7)	(79.1)	—	(78.7)	(78.2)	(78.0)	—	(77.8)	(78.1)	(77.5)	—
小売売上高(前年比、%)	(1.7)	(4.2)	—	(1.4)	(2.6)	(0.8)	—	(0.8)	(0.9)	(1.3)	—
自動車国内販売台数(千台)	2,309	2,635	2,690	552	647	712	779	243	261	239	279
失業率(%)	(8.0)	(6.9)	—	(6.8)	(6.2)	(5.6)	—	(5.6)	(5.4)	(5.2)	—
消費者物価上昇率(IPCA) (前年比、%)	(4.6)	(4.4)	(5.0)	(5.0)	(5.4)	(5.2)	(4.5)	(5.2)	(4.7)	(4.5)	(4.3)
卸売物価上昇率(前年比、%)	(▲6.1)	(0.5)	(3.9)	(9.1)	(7.1)	(2.0)	(▲2.0)	(1.9)	(▲0.6)	(▲2.1)	(▲3.3)
輸出(FOB)(億ドル)	3,397	3,370	—	775	893	926	—	306	317	287	—
(前年比、%)	(1.7)	(▲0.8)	—	(▲1.2)	(▲0.8)	(4.5)	—	(6.7)	(7.6)	(2.3)	—
輸入(FOB)(億ドル)	2,408	2,629	—	701	709	790	—	284	259	236	—
(前年比、%)	(▲11.7)	(9.2)	—	(12.7)	(2.6)	(7.5)	—	(17.4)	(▲1.3)	(7.1)	—
貿易収支(億ドル)	923	658	—	74	184	137	—	23	58	51	—
経常収支(億ドル)	▲271	▲662	—	▲232	▲114	▲224	—	▲99	▲55	▲49	—
直接投資ネット流入(億ドル)	628	741	—	230	130	274	—	108	109	98	—
外貨準備高(億ドル)◎	3,170	2,827	2,981	2,918	2,938	3,089	2,981	3,089	3,047	3,019	2,981
ベースマネー(億リアル)◎	4,227	4,512	4,471	4,433	4,510	4,297	4,471	4,297	4,319	4,305	4,471
政策金利(Seric Target rate)◎	(11.75)	(12.25)	(15.00)	(14.25)	(15.00)	(15.00)	(15.00)	(15.00)	(15.00)	(15.00)	(15.00)
対米ドル為替相場◎	4.841	6.192	5.502	5.742	5.457	5.318	5.502	5.318	5.384	5.334	5.502
株価指数(ボベスパ指数)◎	134,185	120,283	161,125	130,260	138,855	146,237	161,125	146,237	149,540	159,072	161,125

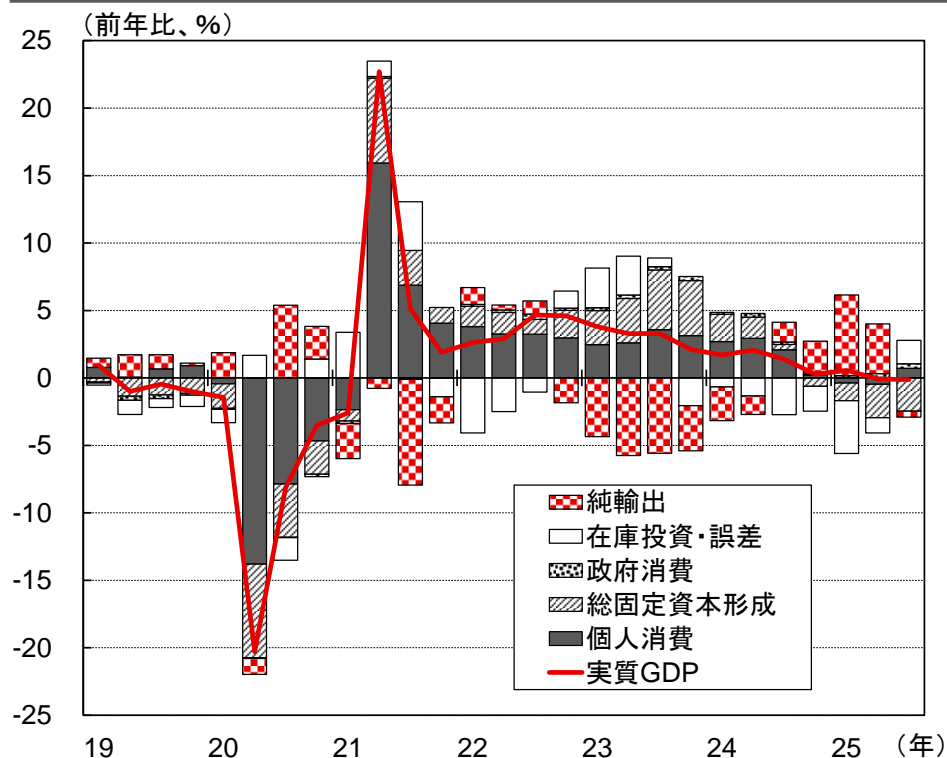
(注)◎印:期末値、○印:季節調整値

(資料)ブラジル中銀、ブラジル地理統計院(IBGE)、世界銀行、サンパウロ証券取引所より国際通貨研究所作成

## 2. メキシコ (1) 景気概況

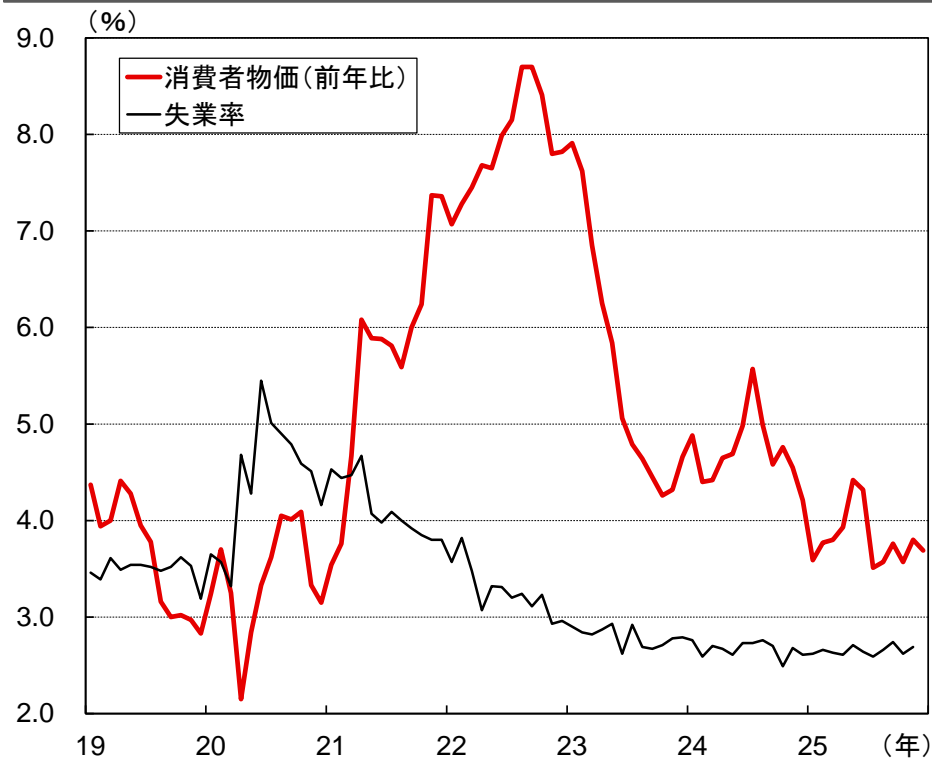
- 2025年7-9月期の実質GDP成長率は前年比▲0.1%と、前期(同▲0.1%)同様に僅かなマイナスとなった<sup>(注)</sup>。需要項目別の寄与度では、個人消費(同+0.7%ポイント)が前期のマイナス寄与からプラス寄与に転じた一方、純輸出(同▲0.5%ポイント)はマイナス寄与に転じた。総固定資本形成(同▲2.5%ポイント)と政府消費(同+0.3%ポイント)は前期から横這いであった。  
(注)2025年4-6期の実質GDP成長率について、データ公表時は前年同期比+0.0%のゼロ成長であったが、今回▲0.1%に修正された。
- 2025年11月の失業率は2.7%と引き続き低位で推移している。
- 同年12月の消費者物価上昇率は前年比+3.7%と、7月以降、メキシコ銀行の定めるインフレ目標(前年比+3%±1%)内で安定して推移している。

実質GDP成長率の推移



(資料) 国立統計地理情報院統計より国際通貨研究所作成

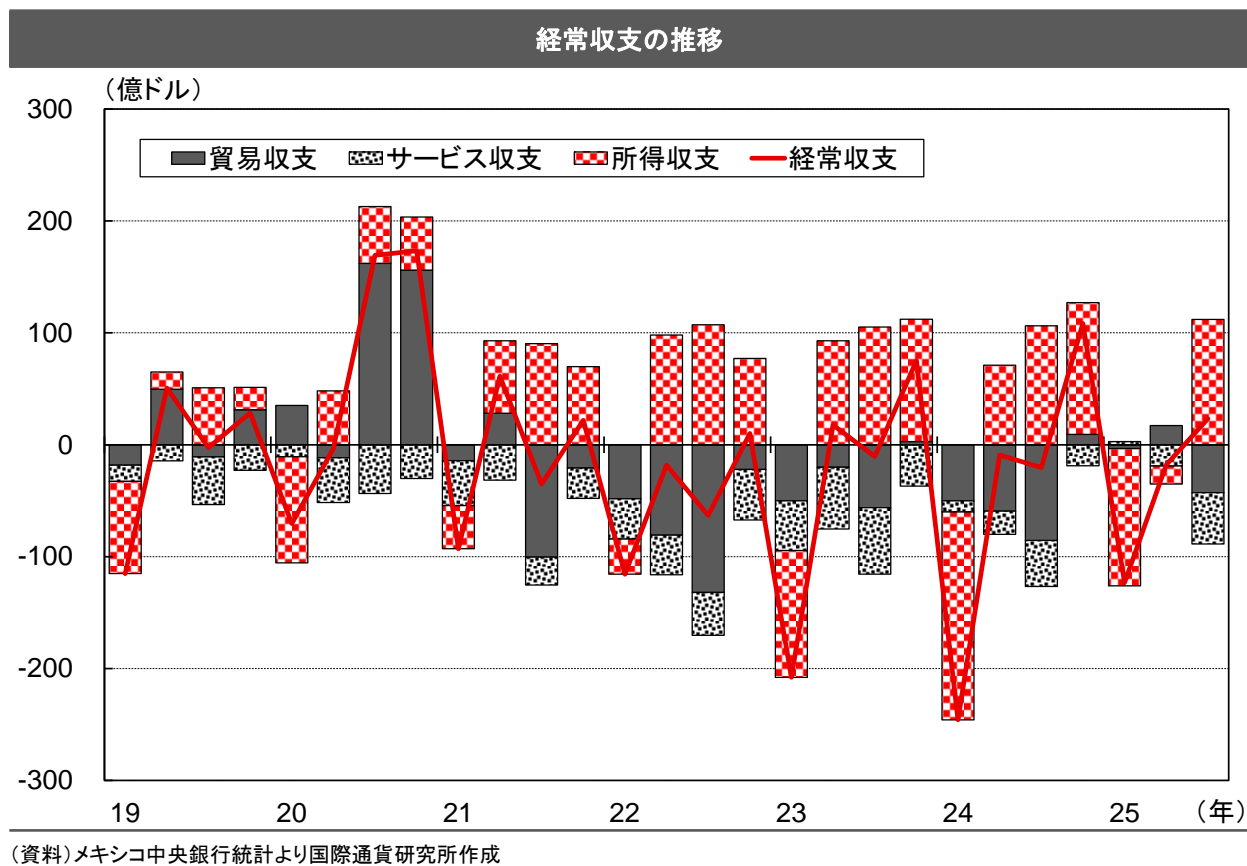
消費者物価上昇率と失業率の推移



(資料) 国立統計地理情報院統計より国際通貨研究所作成

## 2. メキシコ (2) 経常収支

- 2025年7-9月期の経常収支は+23億ドルと、前年同期の▲20億ドルから小幅ながら黒字化した。
- 内訳をみると、サービス収支は▲46億ドル(前年同期: ▲41億ドル)と赤字幅が小幅に拡大した一方、貿易収支は▲43億ドル(同: ▲85億ドル)と赤字幅が縮小し、所得収支は+112億ドル(同: +106億ドル)と黒字幅が小幅に拡大した。



## 2. メキシコ (3) 金融市場

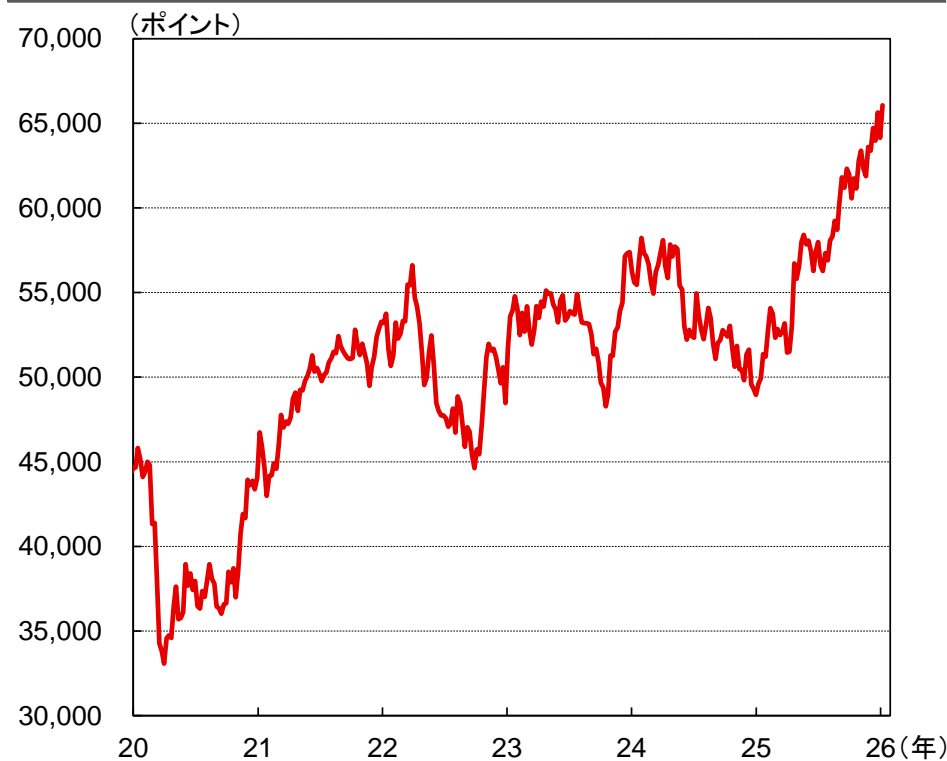
- メキシコペソの対ドル相場はペソ高の動きが継続しており、足元1ドル＝18ペソを下回って推移している。メキシコ経済は足元停滞しているものの、米ドルがその他通貨に対して減価傾向であることや、米国の関税政策のメキシコへの影響が当初の懸念程大きくない(負担が重くない)という見方などによって、ペソ高が進行していると考えられる。
- メキシコ銀行(中銀)は段階的な利下げを続けており、2025年12月の金融政策決定会合において、政策金利を7.0%に引き下げた。足元のペソ高や国内の経済活動の弱さ、世界的な通商政策への懸念などを踏まえた利下げであると発表している。
- 株価(ボルサ指数)は、2025年4月以降大きく上昇し、足元は65,000ポイント超で推移。ブラジルのボブスパ指数と同様に、世界的なリスク選好の流れの中、他主要国の株価指数に比して引き続き割安であることも<sup>(注)</sup> 株価上昇の一因となっている。  
(注)2026年1月21日時点でボルサ指数のPERは15.3であり、こちらも相対的に割安となっている。

メキシコペソ(対米ドル)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

株価(ボルサ指数)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成



## 2. メキシコ (4) 経済・金融概況

### メキシコの主要経済指標

	年次			四半期次				月次			
	2023	2024	2025	25/1-3	4-6	7-9	10-12	25/9	10	11	12
実質GDP成長率(前年比、%)	(3.1)	(1.4)	—	(0.6)	(▲0.1)	(▲0.1)	—				
鉱工業生産(前期比、%)○	(3.0)	(▲0.6)	—	(0.1)	(0.3)	(▲1.3)	—	(▲0.2)	(0.9)	(0.6)	—
自動車生産台数(千台)	3,779	3,989	3,962	968	1,045	1,015	934	356	368	322	244
自動車販売台数(千台)	1,361	1,490	1,508	365	344	366	433	117	130	148	154
原油産出量(千バレル/日)*	1,875	1,759	—	1,615	1,631	1,648	—	1,652	1,641	1,641	—
(前年比、%)	(5.1)	(▲6.2)	—	(▲11.3)	(▲8.6)	(▲6.5)	—	(▲5.6)	(▲4.5)	(▲1.9)	—
原油輸出価格(米ドル/バレル)	70.9	70.3	—	64.9	61.0	61.5	—	60.6	57.5	57.2	—
失業率(%)○	(2.8)	(2.7)	—	(2.6)	(2.7)	(2.7)	—	(2.7)	(2.6)	(2.7)	—
消費者物価上昇率(前年比、%)	(5.5)	(4.7)	(3.8)	(3.7)	(4.2)	(3.6)	(3.7)	(3.8)	(3.6)	(3.8)	(3.7)
輸出(FOB)(億ドル)	5,930	6,177	—	1,489	1,638	1,689	—	565	661	564	—
(前年比、%)	(2.6)	(4.2)	—	(3.7)	(4.9)	(8.2)	—	(13.8)	(14.2)	(7.9)	—
輸入(CIF)(億ドル)	6,053	6,362	—	1,492	1,621	1,733	—	589	655	557	—
(前年比、%)	(▲0.1)	(5.1)	—	(0.4)	(0.1)	(5.2)	—	(15.2)	(12.8)	(5.2)	—
経常収支(億ドル)	▲125	▲167	—	▲123	▲18	23	—				
資本収支(億ドル)	▲0	▲1	—	0	▲0	▲0	—				
外貨準備高(億ドル)◎	2,128	2,290	2,519	2,373	2,417	2,473	2,519	2,473	2,489	2,502	2,519
ベースマネー(億ペソ)◎	29,605	32,934	35,450	32,512	32,523	32,891	35,450	32,891	32,982	33,882	35,450
政策金利◎	(11.25)	(10.00)	(7.00)	(9.00)	(8.00)	(7.50)	(7.00)	(7.50)	(7.50)	(7.25)	(7.00)
対米ドル為替相場◎	16.92	20.79	18.00	20.44	18.83	18.33	18.00	18.33	18.57	18.31	18.00
株価指数(ボルサ指数)◎	57,386	49,513	64,308	52,484	57,451	62,916	64,308	62,916	62,769	63,597	64,308

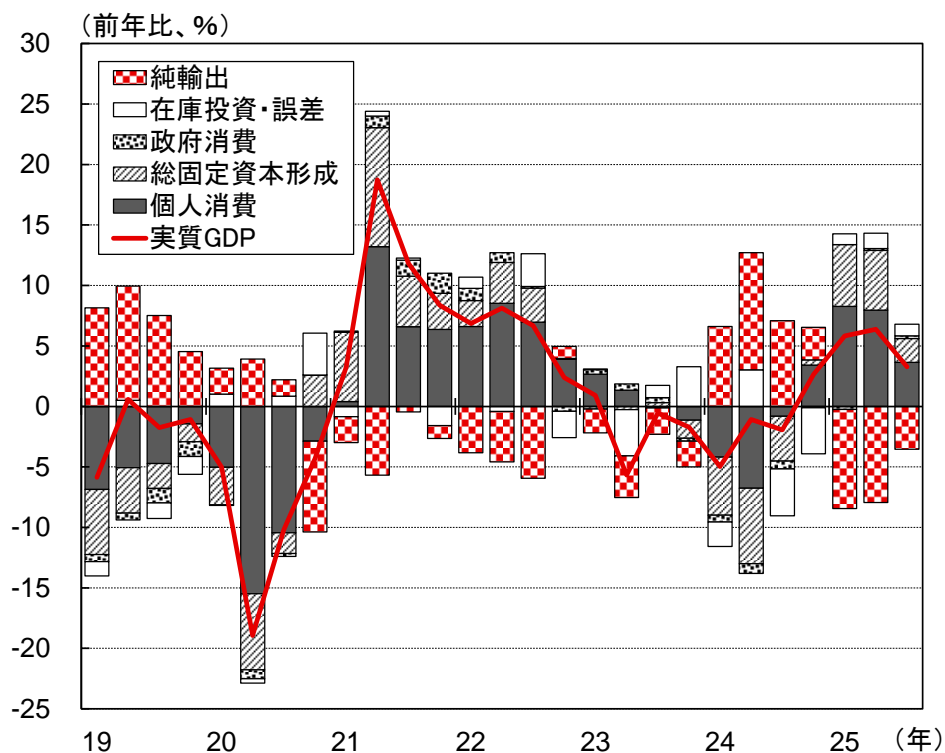
(注)\*印:期中平均値、◎印:期末値、○印:季節調整値

(資料)メキシコ中銀、国立統計地理情報院(INEGI)、PEMEXより国際通貨研究所作成

### 3. アルゼンチン (1) 景気概況

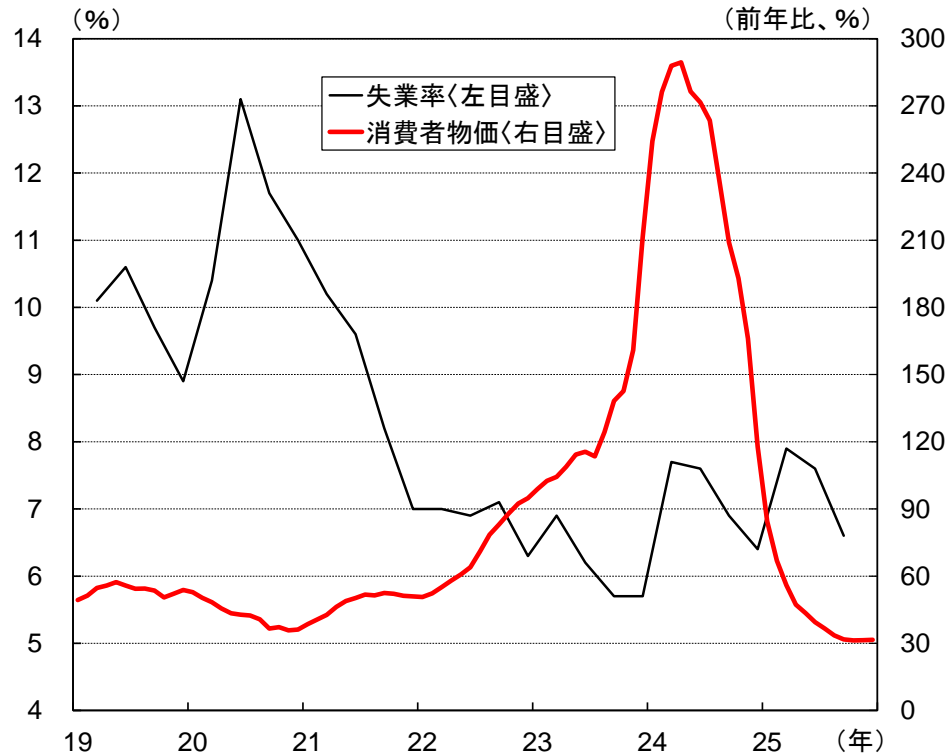
- 2025年7-9月期の実質GDP成長率は前年比+3.3%と、好調であった前期(同+6.4%)からは減速した。需要項目別の寄与度では、純輸出(同▲3.5%ポイント)はマイナス幅が縮小した一方、個人消費(同+3.7%ポイント)と、総固定資本形成(同+2.0%ポイント)はプラス幅が縮小した。政府消費(同+0.2%ポイント)は横這いであった。
- 2025年7-9月期の失業率(未季節調整値)は6.6%と前年同期の6.9%からやや低下した。
- 消費者物価上昇率は2024年4月をピークとして低下傾向が続いていたが、10月以降ほぼ横ばいで推移しており、12月には前年比+31.5%となった。

実質GDP成長率の推移



(資料) アルゼンチン国家統計センサス局統計より国際通貨研究所作成

消費者物価上昇率と失業率の推移



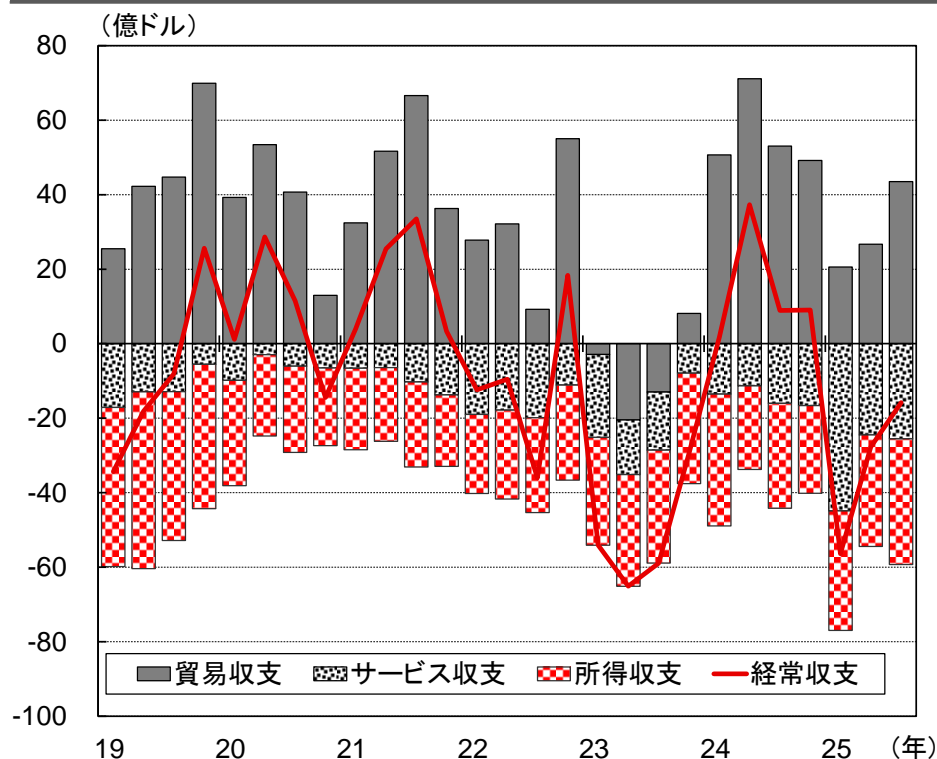
(注) 失業率は未季節調整値。

(資料) アルゼンチン国家統計センサス局統計より国際通貨研究所作成

### 3. アルゼンチン (2) 経常収支・外貨準備高

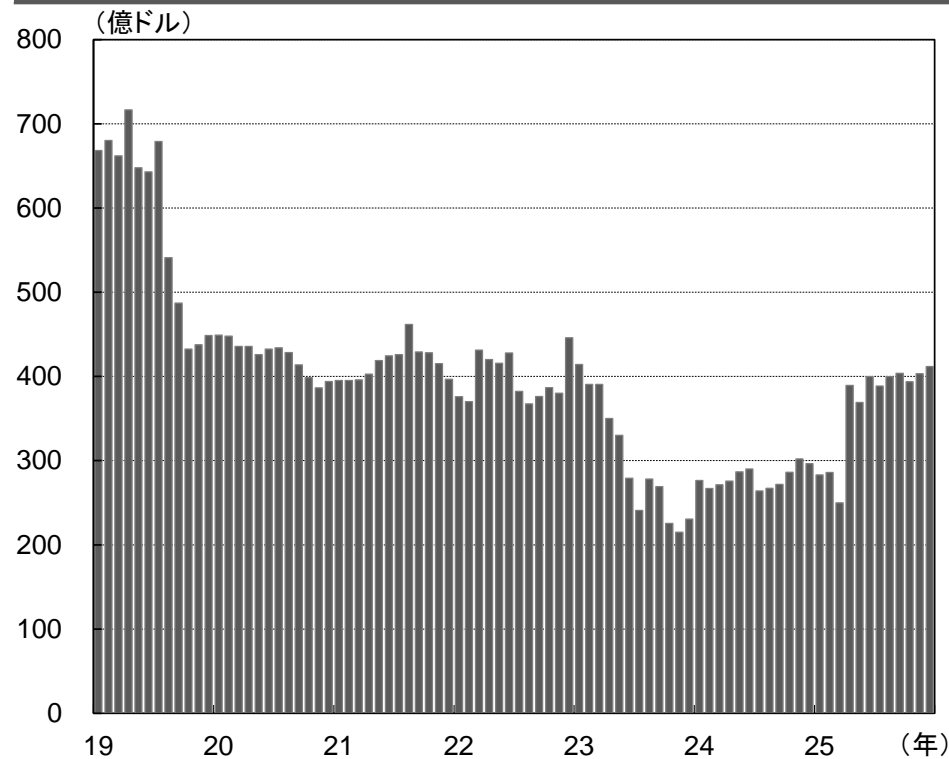
- 2025年7-9月期の経常収支は▲16億ドルと、前年同期の＋9億ドルから赤字に転じた。
- 内訳をみると、貿易収支は＋43億ドル（前年同期：＋53億ドル）と黒字幅が縮小し、サービス収支は▲26億ドル（同：▲16億ドル）、所得収支は▲34億ドル（同：▲28億ドル）と赤字幅が拡大した。
- 2025年12月末時点の外貨準備高は412億ドルと、4月にIMFから200億ドルの融資が実行されて以降大きな変動はない。

経常収支の推移



(資料) アルゼンチン国家統計センサス局統計より国際通貨研究所作成

外貨準備高の推移

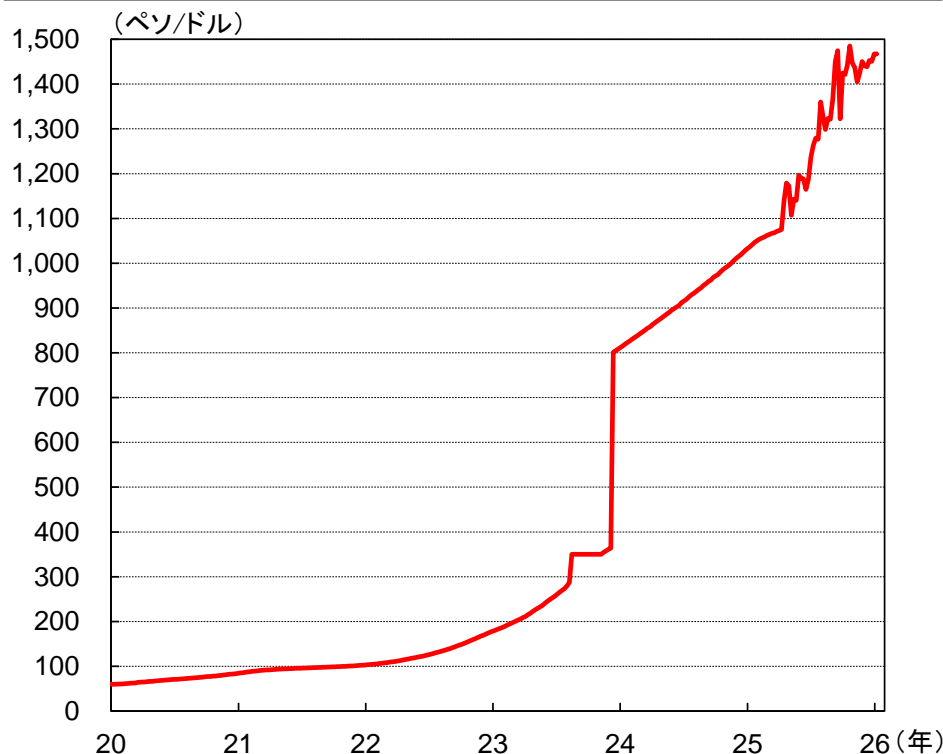


(資料) アルゼンチン中央銀行統計より国際通貨研究所作成

### 3. アルゼンチン (3) 金融市場

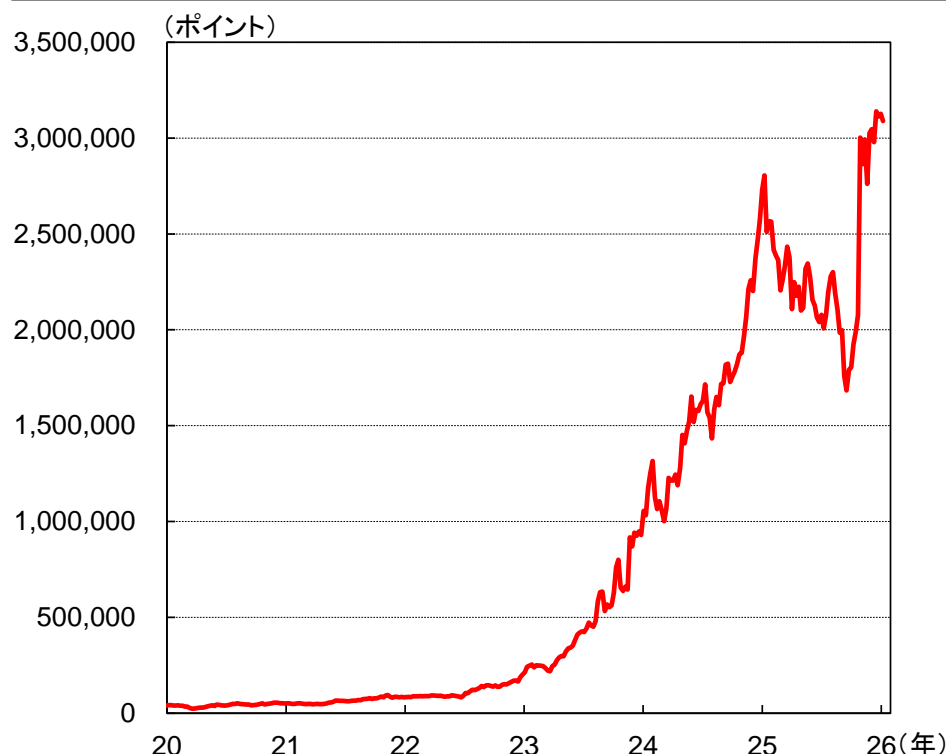
- アルゼンチン中央銀行は、完全な変動相場制への移行を目指して、2025年4月からアルゼンチンペソの為替バンド制を導入している。アルゼンチンペソの対ドル相場(公定レート)は、足元1ドル=1,400ペソから1,500ペソのレンジで推移している。
- 政策金利は2025年1月に設定した29%での据え置きが続いている。
- 株価(メルバル指数)は、2025年年初から10月にかけて下落した後、上昇基調に転じており、足元では3,000,000ポイントを上回って推移。ミレイ大統領が率いる与党「自由前進(LLA)」が10月の中間選挙で勝利し、財政改革をはじめとする諸改革が継続する見通しとなったことから、株価は大きく伸長した。

アルゼンチンペソ(対米ドル)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

株価(メルバル指数)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

### 3. アルゼンチン (4)経済・金融概況

#### アルゼンチンの主要経済指標

	年次			四半期次				月次			
	2023	2024	2025	25/1-3	4-6	7-9	10-12	25/9	10	11	12
実質GDP成長率(前年比、%)	(▲1.9)	(▲1.3)	—	(5.8)	(6.4)	(3.3)	—				
鉱工業活動指数(前年比、%)	(▲1.7)	(▲9.1)	—	(6.3)	(8.3)	(▲1.9)	—	(▲0.5)	(▲2.8)	(▲8.7)	—
建設活動指数(前年比、%)	(▲3.1)	(▲27.1)	—	(6.0)	(16.5)	(3.0)	—	(7.0)	(8.0)	(▲4.7)	—
自動車生産台数(千台)	611	507	491	114	136	129	112	47	47	38	26
自動車販売台数(千台)	407	411	587	128	171	156	131	54	45	35	51
失業率(%)	(6.1)	(7.2)	—	(7.9)	(7.6)	(6.6)	—				
消費者信頼感指数	41.1	39.5	44.5	46.3	45.0	42.0	44.6	39.8	42.3	46.0	45.6
消費者物価上昇率(前年比、%)	(133.5)	(219.9)	(41.7)	(68.0)	(43.3)	(33.9)	(31.4)	(31.8)	(31.3)	(31.4)	(31.5)
輸 出(FOB)(億ドル)	670	797	—	187	211	238	—	81	80	81	—
(前年比、%)	(▲24.5)	(19.0)	—	(7.1)	(1.5)	(13.8)	—	(16.9)	(13.2)	(24.1)	—
輸 入(CIF)(億ドル)	738	608	—	166	184	194	—	72	72	56	—
(前年比、%)	(▲9.7)	(▲17.7)	—	(34.2)	(34.8)	(24.6)	—	(20.4)	(16.8)	(6.6)	—
貿易収支(億ドル)	▲68	189	—	21	27	43	—	9	8	25	—
外貨準備高(億ドル)◎	231	296	412	250	400	404	412	404	394	403	412
ベースマネー(億ペソ)◎	96,080	297,286	429,570	305,342	371,756	422,956	429,570	422,956	413,272	409,266	429,570
対民間部門貸出量(億ペソ)◎	237,481	784,570	—	938,425	1,104,587	1,242,008	—	1,242,008	1,283,933	1,319,074	—
(前年比、%)	(161.4)	(230.4)	—	(198.5)	(153.1)	(110.2)	—	(110.2)	(96.8)	(87.9)	—
経常収支(億ドル)	▲208	57	—	▲56	▲28	▲16	—				
対米ドル為替相場◎	808.48	1.032.50	1.459.42	1.073.88	1.194.08	1.366.58	1.459.42	1.366.58	1.443.00	1.450.75	1.459.42
株価指数(メルバル指数)◎	929,704	2,533,635	3,051,617	2,338,761	1,994,825	1,773,440	3,051,617	1,773,440	3,002,607	3,026,469	3,051,617

(注)◎印:期末値

(資料)アルゼンチン中銀、国家統計センサス局、経済省、アルゼンチン大学、OECD、アルゼンチン経済省より国際通貨研究所作成

---

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。  
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる  
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。  
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により  
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室  
〒100-8388 東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行本店ビル

照会先： 国際通貨研究所 森川 央 morikawa@iima.or.jp  
川畑 昭人 akito\_kawabata@iima.or.jp